



|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>的な名前を考えろということである。考古館の方は「縄文」というのを入れようと考えている。</p>   |
| 名取委員        | <p>基本的な発想は、考古館も博物館も同じか。</p>  |
| 鵜飼課長        | <p>考古館の方は、市民全員が、縄文の知識を若干持ってもらいたいという程度である。博物館はリーダー的な市民学芸員を養成したいと考えられている。</p>  |
| 小池委員        | <p>前回の会議で鵜飼課長がいなくて聞けなかったが、考古館の縄文検定で「博士」を授与しているが、その博士がどのように生かされているか。</p>  |
| 鵜飼課長        | <p>縄文検定で縄文博士を認定しているが、博士の人たちが、博物館の市民学芸員と同等になると考えられる。考古館では、博士の人たちにボランティア的な仕事ができるように、例えば学校の普及事業の指導者になっていけばいいと思っている。</p>   |
| 小池委員        | <p>体制はできているのか。</p>   |
| 鵜飼課長        | <p>今年初めて夏に上級検定を開催して、博士が7人できたので、初・中級を含めて、組織化していきたいと思う。上級の人たちは、エコツーリズムの講師として派遣できるように考えている。全員がボランティア的な仕事をしたいと思っているわけではない。自分の知識を高めたいと思っている人も中にはいるので、普及活動をしていきたい人を対象に考えている。</p> |
| 茅野委員        | <p>知識を得たいという人もいるだろうし、普及したいと意欲を持っている人もいると思う。博物館は、どちらかといえば、意欲を持っている人を求めていると思う。我々が学芸員といえば、知識のある人、意欲的な人と考えるが、そのような人がどのような名称を授与されれば嬉しいか、自分の知識だけというのもあるが、どういう所を狙っていくかということだ。</p> |
| 沖野部会長       | <p>博物館の運営にも関わってもらえる人が必要ということか。</p>   |
| 鵜飼課長        | <p>普及ということだけではなく、深く研究をしたい、自分の研究心や学問的な興味や課題をしながら、別に普及活動をしなくても、研究をするだけの人でも良いかなと思う。もちろん、自分たちが研究したことに基づいて普及活動をしてくれればいいと思う。</p>   |
| 花里委員        | <p>「マイスター」というのも良いかと思うが、マイスターってあまり使われていない言葉だ。</p>   |
| 沖野部会長       | <p>マイスターといえば、どちらかといえば、研究者というより技術者という意味だ。博物館としてはちょっと違う感じがする。</p>  |
| 名取委員        | <p>具体的にするには、「総合博物館」とか付けられればいいか。もう少し親しみのある名前になれば。</p>   |
| 若宮八ヶ岳総合博物館長 | <p>造語でもよい。</p>   |
| 鵜飼課長        | <p>信州大学の環境マイスターは、卒業すると立派な修了証をちゃんともらえるようだ。それだけ立派なものがあると、見てくれる人もすごいと思う。</p>  |
| 花里委員        | <p>最初に受けた人が一生懸命やると、こういったものが定着する。最初の人たちが、キーになってくる。</p>  |
| 沖野部会長       | <p>資格のある人材が持続的につながっていく。博物館で、名称を与えるための講座を組んで、修了してある程度の成績を取った人に与えると、同窓会的に友の会ができる。</p>  |
| 沖野部会長       | <p>人によるかと思うが、名称があると近寄りにくいとか、逆に名称がない</p>  |

とまとまりにくいことなどあると思う。いずれにしても、博物館としては人手として動いてもらいたいということだが。

最終的には、市民学芸員的なものを博物館組織の中に組み込んで、持続的に運営に関われる人が入ってくれることは必要という点は、委員間で一致していると思う。このようなことを踏まえて、博物館・科学教育センターの中味を考えていきたい。

今日、小・中学校を見学して、博物館としてどういう所に興味を持ったかを伺いたい。

小学校の方が、親しんで授業を行っていたようだ。中学となると、試験があるので、試験の点数が悪いと、理科から興味が離れていってしまうのかということを感じた。中学校は、実験中心というより、授業が中心にならざるを得ないのかなと思った。その割には理科室が立派だった。もし、博物館で学校教育の隙間を埋めていくとすれば、興味のある生徒が博物館へ来て、実験などを行えることなど、小・中学校の授業を補う形かと思う。しかし、小・中学校の生徒が一人で博物館まで来るのは難しい。小学校のようにクラブがあってまとまって来られると利用しやすいと思う。中学生対策の方が難しいが、成長の過程としては中学生の方が、もう少し細かく対応を考えることができる。中学生も引き込めるような方法はあるのだろうか。中学生には受験の問題も関わってきてしまうので難しい気がする。博物館で、小・中学校の授業を補えることが可能なかどうか。時間的に難しいような気がするが。

茅野委員

中学校の先生に話を聞くと、博物館学習の余裕があるのかと思う。小学校の先生達はまだ余裕があるのかと思う。中学の先生が博物館へ来て勉強するという余裕はないと思う。中学校の先生は、授業の他に部活も持っている。茅野北部中学校には、科学関係のクラブはないということだった。

沖野部会長

小学校の時に博物館に取り込んで、その子たちが中学校に進学しても継続して個人的に来るということも考えられる。あえて中学生を対象にしないでもいいのではないか。

茅野委員

博物館に面白い講座があり、研究者がいて、自分も興味を持ったら、続けて博物館に来ると思う。核になる人が博物館にいることになるが、市民学芸員が講座を持つことになるか。小学生で講座に出て、面白さに取りつかれた人は、中学生になっても継続していくと思う。

沖野部会長

継続させることが大事だ。あるところで途切れてしまう。高校まで行くと、自分で積極的に研究する子供が出てくる。

小池委員

小学校は地域の素材を教材化しているので、中学校とは違う。素材を博物館で開発、揃え、どこへ行けばこのような勉強ができるということを用意するという学芸員が必要だと思う。授業に直結することを考えると難しい。素材を提供するというで行けばいいと思う。

岡本委員

中学校は出口の指導があるので、理科の学力をつけなければならないという思いがある。縄文プロジェクトとの関係で、25年度から縄文学習の構想を具体化する計画がある。茅野市の縄文以来の歴史的背景の中で育まれてきた縄文の精神について学ぶ機会について、各学校でどのように学習として位置付けられそうか縄文観ないし縄文学習について洗い出していく必要がある。私の今までの考え方だと、縄文というと歴史寄りのことだと思



意義や価値を教育委員会や学校が気がつかないままカリキュラムを作っている。学校のどの時間を博物館学習に振り向けられるかというものを、各学校で吟味してもらいたい。自然や縄文などに、子供たちに興味を持ってもらうには、市教育委員会の姿勢が大事である。茅野市の特色を生かした茅野市の教育の特色をどう出すかという、教育委員会の姿勢があれば良い。

博物館では、人を呼ぶためにはどうすればよいかという発想はダメだと思う。学校現場の声を聞いて、学校現場にどうサービスしていくか、一般市民が求めるものは何なのか。求めるものに対して、博物館運営をどうしていくかを考えてほしい。こういう中で人が集まってくる。前回までいろいろ出てきた意見を生かしながら、市民にサービスしていけばよい。問題は講座の中味である。中学校より小学校の方が、可能な部分が多いと思う。学校教育内容につながる講座があるのかどうか、できるのかどうか、これは教育委員会と校長会の要望を聞いてやっていく。

講座内容に関心を持って来る講座もあると思う。2本立てで考えていくことが大事だが、体勢などの面で学校教育内容につながる講座はすぐにはできないと思う。何を置いても、学校の先生達に博物館学習の意義や価値を感じてもらうような取り組みをしてもらいたい。

市民学芸員については、意欲のあるサービス精神のあるコミュニケーション能力のある資質が重要だ。欠かせないものは専門的なものだが、専門的なものは検証できる。その他の資質はなかなか難しい。市民学芸員を育てていくには、研修項目を定めて、そのような力をつけてもらうしかないと思う。

岡本委員

小学校も中学校も学習内容にかかわる計画は、どの教科・領域も明確になっていなければならない。その中で博物館を利用した学習も思いつきでやるのではなく、いつ、どのような学習を実施するのか、その見通しがきちんと位置づいている計画を作成する必要がある。そのために市内の小中学校の教員が、どのような活用や位置づけができるか検討する組織も必要になってくると思われる。

若宮八ヶ岳総合博物館長

次回、検討をいただこうと思っている運営についてであるが、土・日曜日は学校が休みで、子供たちが自由に博物館に来れるので、この時にイベントを開催する。短期的なイベントと長期的なものを網羅し、子供たちが居つけるようにしたい。居つけるような入口になるものを土・日曜日に開催し、火～金曜日については、子供たちが学校へ行っているので、子供を対象にするなら、学校を対象にしなければならない。学校を対象にするについては、まずは小学校から取り組んでいかなければならない。小学校については、小学校で本来付けなければならない力について、基礎的なことは小学校でやっているということを前提に、博物館は学校の授業を発展させるか補完する役割だと思う。また博物館は学校でできないようなメニューを行う必要があると思う。そのような運営をしていく必要があると思う。

学校以外に考えなければならないのは、一般市民である。一般市民をどう取り込んでいくかは、次回の運営の協議で提言していただきたい。

中学校については、中学校が博物館学習にやってくるのは、時間的には難しいということが今日わかった。中学校は、小学校の興味を更につなげて中学でも学習が続けられるように中学生を博物館では対象にしていくと

|             |   |
|-------------|---|
| 沖野部会長       | <p>いう取り組みがここでは必要になると思う。</p> <p>今日、新しく出た課題としては、当初科学教育センターは、学校の先生方を対象とした小・中学校でできない部分の課題をやれる場所という位置付けだったが、今日の協議では、先生は副次的で、子供が使えるような博物館・科学教育センターという感じになってきた。最初の議論から発展したのか、それとも横にズレてきているのか、そのあたりのところがこれからの課題である。</p>   |
| 若宮八ヶ岳総合博物館長 | <p>日常的な運営面で考えると、平日は学校を対象にしたもの、先生達の支援を目的としたものを実施する。先生達の支援は学校児童を対象にしたものの合間にはめ込んでいくと考えていくのが良いのではないかと。場合によっては土・日や夏休みなどにも。</p>   |
| 沖野部会長       | <p>研究キットみたいなものを提供していくとか、そのような形で博物館の中で位置付けていく形になるか。以前からある科学教育センターではなく、地元に着した科学教育センターまたは科学実践センターみたいなものになるのかと思う。</p>   |
| 鵜飼課長        | <p>科学教育センターは、長野市の科学教育センターのように、理科の先生達が来て、研修できるような場所だと思っていたが、今の話を聞いていると、先生の研修の場ではなく、授業でできないことをできる場として充実して言った方が良いと思う。</p>  |
| 沖野部会長       | <p>役割としてはそういうことなのかと思う。以前とは違い、住民の知識レベルが上がっているし、子供も科学知識が多いと思う。それだけに難しい部分もあるが、違った形の地元向の科学教育センター・科学実践センターの方が良いと思う。その中で、科学教育に必要と思われるものは、教育委員会にお願いして学校でやってもらう、逆に博物館から提言していくような場としての科学教育センターがあるのかなと思う。</p>   |
| 花里委員        | <p>やはり、キーパーソンは学校の先生で、先生が興味を持って博物でどうしているかということに関心を持ち、子供の中で科学に興味を持っている子がいたら、博物館へ行くともっと学べるよということを持ってもらうということだ。先生達に情報を伝えることが重要で、イベントなどの情報データを学校の先生に常に配布していくことが重要だ。</p>  |
| 沖野部会長       | <p>学校側に対して博物館でこう言うことをやっている、こういうものが博物館にあるという広報は必要だ。情報として、博物館に何かあるかを先生に広報できれば、子供たちに伝えられる。そのためには、博物館の講座などを充実していくことが必要である。しかし、常勤の正職員が対応することは難しいので、知識レベルの上がっている住民に協力してもらう体制として、市民学芸員が必要であるという時代なのかもしれない。これをどうやって作っていくかが課題であるし、資格を与える人が博物館にいないといけない。そのあたりの組織が運営とともに課題になる。</p> <p>茅野市としての科学教育センターは、茅野市の風土を学んでもらう場として、住民や教育現場の人たちに利用してもらおう場所という位置付けがいかかもしれない。</p> |
| 若宮八ヶ岳総合博物館長 | <p>縄文は歴史分野だけではなく、自然分野もひっくるめて、縄文文化を作っている。そう考えれば博物館は茅野市の特徴ある教育からは離れておらず、縄文を経て発展してきた茅野市を扱う博物館の役割もあると思う。</p>  |

|          |   |
|----------|---|
| 沖野部会長    | 縄文の遺跡が標高約 1,000mのところにあるのは、当時の自然環境と関係がある。例えば、ドングリを食べていたなど、周辺の植生とも関係している。環境と人の生活を大きく捉えると、人の生活は自然環境全てと関係がある。このような捉え方で、住民や来館者に説明すると、わかりやすいのではと思う。   |
| 岡本委員     | 今日中学校を見て、皆さんも感じたと思うが、中学が持っている重み、インプットというキーワードとつながっていくと思う。生徒がアウトプットしている暇がない。インプットの連続で時間が取られてしまう。小学校の明るさは、アウトプットしているというキーワードである。このように考えると、博物館を活用するキーワードは、インプットもあるがどちらかというと、アウトプットである。自分とのかかわりを積極的に出していか、覚えて事を使って何かやっていくというように、面白いと感知することが、個々の機能だと思う。ターゲットは小学生だが、中学生あたりも、そのような意識で連動させることができればいいなと思う。 |
| 北沢副部会長   | 土・日曜日のイベントにしても中学生は別に置くのではなく、中学生も念頭に置なら気持ちを持ってやっていただければいいと思う。中が正にも関心があるのだと思う。  |
| 沖野部会長    | 小学校時代に経験をしていれば、中学になっても、イベントに出てくると思う。  |
| 石森委員     | 東海大学付属第三高校で、理科の実験をしたが、参加したのは大体小学校時代に経験のある子供たちである。   |
| 沖野部会長    | 子供の理科離れというのは嘘だと思う。先生が理科離れしている可能性がある。本当は子供は理科好きなのだけれども、親や先生が理科離れしていると思う。子どもの理科好きを伸ばせないのが問題で、伸ばせる場所として博物館は有効だと思う。子どもに親がついて来るのであれば、親にも何かやってもらえることがあればいいのではないかな。  |
| 花里委員     | 親は子供に引っ張られる。先生が子供こうゆうものがあると伝え、子供が親を連れてくるということなのだと思う。  |
| 名取委員     | 小学生と定年後の人たちをターゲットにしていくと、時代の先を考えると良い視点だと思う。  |
| 沖野部会長    | ある面では、最初の考え方を修正しなければならない部分も出てきた。そのような課題を整理して新しく考えていかなければいけない部分も出てきた。「地元の人たちにとっての博物館」が基本で、最終的には市民学芸員も茅野独自の名称を考えてもらいたい。片仮名でない方がいいと思う。柔らかい日本語でできないかと思う。  |
|          | その他、委員から特に質問、意見等はなく、審議を進めることで了承された  |
| 大谷係長     | 4 次回以降の開催予定<br>次回は12月20日(木)に開催することになっている。   |
| 沖野部会長    | 来年、1月17日(木)に、最終的な所を皆さんに了解してもらったらどうか。次回は、運営的な課題を中心に議論していきたい。   |
| 若宮八ヶ岳総合博 | できれば、どのように運営していくと、博物館としては良いのではない  |

|              |   |
|--------------|---|
| 物館長          | か、また土・日曜日、平日にどのようにしていけばよいかということ検討していただければいいと思う。最後のところでは、今後の進め方についてである。市民の意見も聞かないといけないので、そのあたりをどのように今後検討していけばいいかということも検討していただきたい。                |
| 北沢副部長        | <p>諮問にあるので、教師の研修を忘れ去ることはできない。教師の研修についても、次回、意見を交わしておいた方がいいと思う。</p> <p>その他、委員から特に質問、意見等はなく、次回以降の日程について了承された</p>                                   |
| 大谷係長         | <p>5 その他</p> <p>前回実地見学をした方がいいのではないかという意見があったが、どうしたらよいか。</p>   |
| 茅野委員<br>沖野部長 | <p>長野市科学教育センターが見学できたらと思う。</p> <p>ある程度取りまとめをしたところで、最終まとめを出す前の時期がいいと思う。質問を相手に投げかけて答えを貰うという方法もある。次回までに気がついたところを出してもらい、それを相手に送って回答を得てもいいかもしれない。</p> |
|              | <p>その他、委員から特に質問、意見等はなく了承された</p>   |
|              | <p>～午後7時40分 終了～</p>   |